

特集

公民館出張観望会の実践報告

須藤 未来（福井市自然史博物館分館（セーレンプラネット））

1. はじめに

1.1 セーレンプラネットの活動

福井市自然史博物館分館（愛称：セーレンプラネット）は、「福井に宇宙の種を」ミッションとして掲げ、様々な博物館活動を行っている。アウトリーチ事業の一つとして、市内公民館での出張観望会を行うことで、市民の方々に星空に親しんでもらう機会を醸成している。

1.2 実施経緯・目的

2019年度まで、主に福井駅前の恐竜広場を使用して観望会を実施していた。感染症禍により不特定多数の参加がある観望会の実施が難しくなり、新たに公民館出張観望会を企画した。公民館単位での実施により、人数調整や感染対策がしやすくなるといったメリットがある。

公民館出張観望会の実施目的は、

- ①市民の天文・宇宙への興味の醸成
- ②地域連携の強化
- ③当館の利用促進

の3点とした。

2. 実施事例

毎年度末に市内公民館 50 館に観望会の案内文書を送付し、申し込みのあった館で実施する。募集館数は年度ごとに異なるが、募集した予定日数と申し込み館数はおおよそ一致し、希望日が重なる場合は抽選、または二次募集を行う。

2.1 実施状況

2020年度：4館	2022年度：13館
2021年度：9館	2023年度：14館

2020年度・2021年度については感染症禍による制限が強く、実施予定は立てたものの直前で中止となるケースが数件あった。

4年間で出張観望会を2回以上実施した公民館は11館で、継続希望をしていただける館も少しずつ増加している。

2.2 実施プログラム

晴天時は天体望遠鏡による天体観望を1時間程度実施している。経緯台式望遠鏡1台、赤道儀式望遠鏡1台を設置し、月・惑星・1等星・二重星などを主に観望する。

公民館の駐車場の一角や玄関前のスペースに望遠鏡を設置し実施する機会が多いが、近隣の小学校の校庭で行う場合や、河川敷の広いグラウンドを会場として行う場合もある。



図1 晴天時の観望の様子

少しの晴れ間さえあれば基本的には屋外での観望と星にまつわる話を行うが、雨天・曇天時には室内でのプログラムとして、主に当館の紹介、StellaNavigator©AstroArtsによる星空案内、望遠鏡操作体験、星座クイズなどを行い、実天の観望が叶わない場合でも目的達成のためのプログラムを実施している。



図2 室内プログラムの様子

3. 感染症禍による対応の変化

2020年度からの出張観望会の中でも、感染症対策は変化している。感染症禍前（～2019年度）、制限が強かった時期（2020年度～2022年度）、制限緩和後（2023年度～）に分けて感染対策や対応の変化を述べる。

3.1 感染症禍前（～2019年度）

主に福井駅前恐竜広場や市内社会教育施設で観望会を行っていた。通りすがりの参加も多く、不特定多数の参加があった。



図3 福井駅前恐竜広場観望会の様子

3.2 制限が強かった時期(2020年度～2022年度)

駅前での不特定多数の観望会が安全対策上の課題で中止し、公民館での出張観望会へとシフトしていった。また、社会教育施設での観望会は人数制限・感染対策の上実施した。

感染対策として、フィルムを張ったポイを参加者一人ひとりに配布し、望遠鏡を覗く際にアイピースにあてがってもらった。

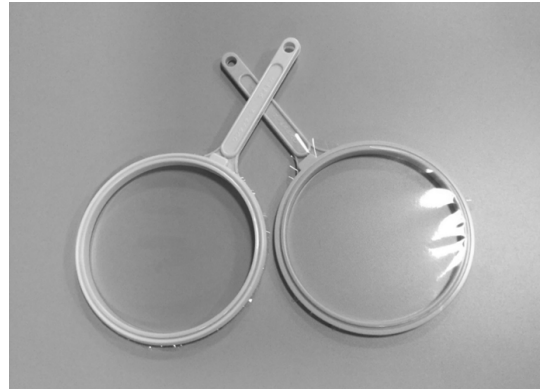


図4 フィルムを張ったポイ

壊れやすいというデメリットはあるものの、個人での使用により感染対策が期待できる、小さな子どもでも使いやすいといったメリットがあった。

3.3 制限緩和後（2023年度～）

公民館出張観望会・社会教育施設での観望会は引き続き実施し、駅前の観望会を再開予定としている。

新たな感染対策として、望遠鏡のアイピースに直接フィルムを取り付けた。



図5 フィルムを取り付けたアイピース

感染対策としての機能の低下は否めないが、清掃の手間が大きく省けることが大きなメリ

ットのの一つとして挙げられる。制限緩和を鑑みた対応として、今後も検討していきたい。

4. 実施による効果

出張観望会の実施により、より多くの地域で星空に親しむ機会を提供できている。2019年度までは、駅前での集客を大きな目的としていたため、観望会はほとんどが駅前や社会教育施設での実施であった。今回、各地域の公民館に赴き観望会を実施することで、普段夜間に参加できない方や当館の活動を認知していない方でも、最寄りの公民館で星空に親しんでいただけた。

また、出張観望会の際に、当館を割引で利用できる「優待券」や、手元に残るフリーペーパー「ソラネタ」を配布することで当館の認知度向上・利用促進にも繋がっている。

さらに、出張観望会の継続的実施の館が増加していることや、公民館同士の繋がりから市外公民館からの申し込みがあったことから、地域連携にも繋がっている。

5. 今後の展望

眼視による観望は引き続き行い、今後は電視観望を取り入れた観望会の実施も行っていきたい。特に駅前での観望会の際は、眼視と電視の両立により、より多くの方に見て頂ける機会を提供できるようにしていきたい。

また、市外公民館からの申し込みがあったことから、次年度以降は需要も考えつつ、市内のみならず市外でも「宇宙の種をまく」活動を行っていきたい。

6. 質疑応答

Q：福井市自然史博物館（本館）が実施している天体観望会との繋がりはあるか？今後の連携計画は？

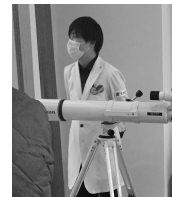
A：本館と分館は運営者が異なり、天体観望会についても別で企画・実施している。本館の天文台望遠鏡を用いた観測等も現在検討・調整している。

Q：観望会において、プラネタリウム館だからこそ意識していることは？

A：参加者のほとんどが小学生連れの親子であることから、普段のプラネタリウム投映で子どもに向けて意識していることを観望会でも意識し、あまり難しい話はしないようにする。

Q：感染症禍になる前は行っていなかったもので、今後特に行っていきたい活動は？

A：電視観望の導入を検討している。具体的な案は決まっていないが、機材や操作性を考えて少しずつ取り入れていきたい。



須藤 未来

m0928sud@goto.co.jp

* * * * *